

神戸学院大学 第3次中期行動計画 中期計画（第3層） 2024年度達成度評価表 分野：教育

		評価	理 由
中期目標	三つのポリシーに基づき、学生の成長を促す教育を実践します。		
中期計画	1 学士課程教育の質的向上の推進	B	カリキュラム・アセスメントについては、全学教育推進機構を中心に大学全体レベルで継続的に実施していることは評価できる。学部等のカリキュラム・アセスメントについても概ね進捗が確認できるが、一部の学部でアセスメントの結果が見受けられないことが今後の課題である。各学部においては、アクティブ・ラーニングにより高い教育効果が生まれている点、学部の特性を活かしたキャリア教育（文系学部では講演会、討論会や企業とのコラボレーションなど、理系学部では専門職としての将来像を考える各種機会の多面的な提供など）が実施できている点等、教育の質向上に向けた取り組みが推進されており、評価できる。今後も、三つのポリシーを軸とした学士課程教育の質的向上に向けたあらゆる取り組みが進むことを期待する。
中期計画	2 大学院課程教育の質的向上の推進	B	三つのポリシーに基づく恒常的なPDCAの実施を図るため、三つのポリシー改正ルールに則した運用、シラバスチェック、FD活動等を行い、大学院課程教育の質的向上の取り組みが推進されている。一方で、一部の研究科において定員未充足が問題となっているが、研究科の実情にあわせて受験者・入学者の確保に向けた取り組みが進められている。研究科によって様々な取り組みがあり、例えば、ガイダンスに加えてオープンキャンパスの実施、学外でのブース出展、在学生を活用した広報等が挙げられる。また、一部の研究科では社会人の大学院進学促進にかかる方策が具体的に検討されており、今後さらなる進学者確保に向けた取り組みが実現することを期待する。

中期計画	3 教職課程教育の質的向上の推進	B	<p>定期的なミーティングを通して、教職課程に関わる教職員（教職教育センター所長、教職課程担当教員、教職教育サポート室指導員、教務センター教職課程担当職員）間の連携強化を図ることで、教職課程を履修する学生への指導を充実させることができている。具体的には、教員採用試験対策講座の実施、メンター制度の活用、教職ハンドブックの発行等が挙げられ、その結果、教員採用試験合格者数は前年度より1名増加した。また、新たに電子黒板を導入することにより、実際の教育現場の変化にも対応できるような体制を整備できている。今後も、教員免許状取得者および教員採用試験合格者のさらなる増加に向けた取り組みの継続、発展を期待する。</p>
中期計画	4 FDの推進	B	<p>全学教育推進機構の主催によるFDセミナーを年2回企画し、開催できている。専任教員のFD活動（研修）への参加率は引き続き100%を達成しており、多様なテーマでの実施ができている。学部・研究科固有のFD活動については、学部・研究科の実情にあわせて実施され、新たな課題意識の醸成につながっている学部もあり、評価できる。共通教育センターでは、非常勤講師参加型のFD研修会を継続して実施できている。非常勤講師とのコミュニケーション強化にもつながっている。今後も、大学全体及び学部・研究科固有の実質的なFD活動の継続を期待する。</p>

<p>中期計画</p>	<p>5 教育環境の整備充実</p>	<p>B</p>	<p>学内施設・設備について、必要に応じて整備の実施及び機器備品等の更新ができています。2026年春に竣工予定のKACI号館建設事業については、各方面で調整が進められている。具体的には、既存の自習室における課題をふまえて、利便性や安全性に配慮し、バリアフリーにも対応した配置・仕様となるよう、調整できている。また、新たな実行計画のもと推進された無線LAN環境のさらなる拡充についても、予算上の問題で、学部が要求するすべての演習室及び実験室に設置することはできなかったが、更新計画を策定し事業が進められている。今後も教育環境のさらなる整備充実が滞りなく進むことが望まれる。</p>
<p>中期計画</p>	<p>6 教育のグローバル化推進</p>	<p>B</p>	<p>新たに発せられた「国際化ビジョン2024」のもと、全学的なグローバル化推進に向けた取り組みを実施できている。複数国の協定大学からの交換留学生受け入れ人数が過去5年で最多となったほか、コロナ禍以降途切れていたカナダのジョンアボットカレッジへの短期海外研修についても再開することができており、全学的な活性化の一步となる見込みである。さらに、年々上昇傾向にある留学費用に関して、奨学金や補助金の支給等、留学意欲のある学生への金銭的支援も行うことができた。また、グローバル・コミュニケーション学部では、国際交流協定校の見直しと新たな交流先の検討が目標を上回る水準で実施できている。今後は、さらなる全学的なグローバル化推進に向けて、課題である学生の語学力向上のための取り組みがより一層進むことが期待される。</p>

中期計画	7 全学的なデータサイエンス教育の充実	B	<p>データサイエンス教育担当の特任講師が着任し、データサイエンス教育の充実を図ることができている。具体的には、特任講師によるデータサイエンス関連科目履修学生からの質問のとりまとめと担当教員への対応依頼、履修学生の成績分布に関する情報共有、オンデマンド授業の進め方に関する議論等が積極的に行われている。単位修得に至らなかった学生が少なからず見受けられ、その原因究明が必要であることに課題はあるものの、データサイエンス関連科目の履修者数が昨年度を大きく上回ったこと、履修者数が増加したにもかかわらず学生の受講に支障が生じなかったこと、授業アンケートの結果が概ね良好であったことはいずれも評価できる。今後も、全学的なデータサイエンス教育のさらなる充実を図ることが期待される。</p>
中期計画	8 附属中学校・高等学校との連携推進	B	<p>附属中学校・高等学校の生徒に対して、キャンパスツアー、大学・学部紹介、高大連携授業、附属高等学校3年生を対象にしたスクーリング等の連携事業を各学年の状況に応じて実施することで、本学への進学につながる意識の醸成や学部選択のミスマッチ防止を図ることができており、評価できる。さらに、協定校から依頼を受けた高大連携事業はすべて実施できており、志願者も増加させることができています。今後も、附属高等学校接続型入試志願者数、協定校からの志願者数のさらなる増加とそれにつながる高大連携事業の発展、高大接続事業の同入試の効果検証に基づく推進が望まれる。</p>

評価 S：目標よりはるかに上回る、A：目標をやや上回る、B：おおむね目標どおり、C：目標をやや下回る、D：目標をかなり下回る